

一人ひとりが自立した学習者になるために ～京都市立堀川高等学校で学んだこと～

20210818

独立行政法人教職員支援機構

荒瀬克己

1 新学習指導要領の基本的な考え方
1月26日答申

2 SSH事業

3 京都市立堀川高等学校の「探究」

第1節 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善^{(第1章総則第3款1(1))}

① 学ぶことに興味や関心を持ち，自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら，見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているかという視点。

② 子供同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているかという視点。

③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているかという視点。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての
子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、
協働的な学びの実現～（答申） 中央教育審議会2021年1月26日

「はじめに」から抜粋

ここでは、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制
の整備により、「個に応じた指導」を学習者視点から整理し
た概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型
学校教育」において重視されてきた、「協働的な学び」とを
一体的に充実することを目指している。さらに、これを踏ま
え、各学校段階における子供の学びの姿や教職員の姿、
それを支える環境について、「こうあってほしい」という願い
を込め、新学習指導要領に基づいて、一人一人の子供を
主語にする学校教育の目指すべき姿を具体的に描いてい
る。

2 SSH事業(2002年度～)

これまでにない研究指定

支援内容・期間・影響力

外部評価／外部との連携／内部の充実

学校の試行錯誤

学校内の情報共有・振り返り

支援と評価



スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援事業

令和3年度予算額 2,251百万円
 （前年度予算額 2,219百万円）
 ※運営費交付金中の推計額



背景・課題

○将来にわたり、日本が科学技術分野で世界を牽引するためには、イノベーションの創出を担う、科学技術関係人材の育成を中等教育段階から体系的に実施することが不可欠。

「経済財政運営と改革の基本方針2020」（抄）（令和2年7月17日閣議決定）

・子供の創造力を高め、その能力・特性や習熟度、地域の実情等に応じた多様で個別最適化された深い学びを実現するため、学年・学校種を超えた学びの拡充、異能・異才への指導・支援、STEAM教育や課題解決型学習（PBL）の充実・・・を進める。

「技術の進展に応じた教育の革新、新時代に対応した高等学校改革について（第11次提言）」（抄）（令和元年5月17日 教育再生実行会議決定）

・国は、スーパーサイエンスハイスクール・・・において開発された課題研究の指導法や教師の育成に関するノウハウを、「探究学習」に係る専門能力に長けた教師の育成にいかすべく、優れた教員の指導方法等についての調査・分析を行い、教員養成課程を置く大学や都道府県教育委員会へ共有する。

事業概要

【事業の目的・目標】

- 先進的な理数系教育を実施している高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」に指定し支援することを通じて、将来のイノベーションの創出を担う科学技術関係人材の育成を図る。
- 高等学校等の理数系の教育課程の改善に資する実証的資料を得る。（学習指導要領の枠を超えた教育課程の編成が可能。）

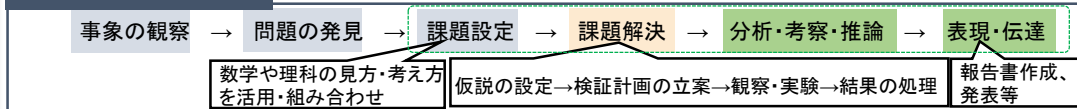
【事業規模】

- ・令和3年度指定校数：218校（うち新規：21校）
- ・指定期間：原則5年
- ・支援額：1期目1年目 12百万円/年、1期目2・3年目 10百万円/年、1期目4年目以降 7.5百万円/年（ただし5期目は、6百万円/年）

【取組】

- 高大・企業連携による興味関心の喚起、フィールドワーク等による課題研究
- 海外の高校・大学等との連携による国際的に活躍する意欲・能力の育成、社会貢献

課題研究の流れ（イメージ）



【重点枠】

- ・ 指定期間：最長5年、支援額：年間 5～30百万円、
- ・ 重点枠数：12校+1コンソーシアム（うち新規：4校）

○SSH指定校の中で、さらに、以下の取組を行う学校を重点枠として追加支援。

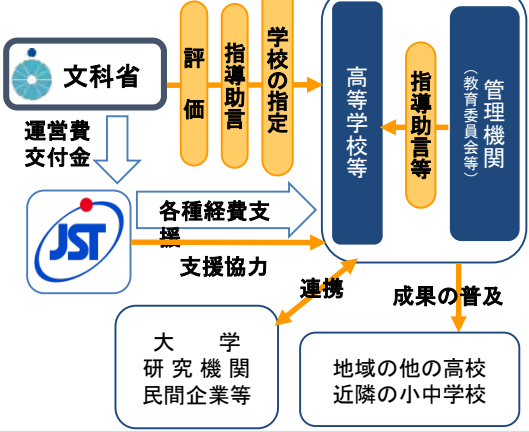
＜高大接続＞高大接続による一貫した理数系トップレベル人材育成プロセスの開発・実証。

＜広域連携＞SSHで培ったカリキュラムや指導法、ネットワーク等を都道府県レベルまたはそれ以上の広域に普及することにより、地域全体の理数系教育の質の向上を図る。

＜海外連携＞海外の研究機関等と定常的な連携関係を構築し、国際性の涵養を図るとともに、将来、言語や文化の違いを越えて共同研究ができる人材の育成を図る。

＜地球規模の社会共創＞地球規模の社会問題について、NPO法人や企業等との連携の下、科学的な課題研究を行うことにより、新たな価値の創造を志向する人材の育成を図る。

【事業スキーム】



【課題研究の例】

岡山県立岡山一宮高等学校「おがくずを用いた新しい耐火性および断熱性素材の開発」（R2年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会 国立研究開発法人科学技術振興機構理事長賞）

成果

学習指導要領改訂

SSHにおける課題研究などの探究的な取組を一般校にも普及すべく、高等学校新学習指導要領（令和4年度から年度進行で実施）において、科目「理数探究基礎」「理数探究」を新設（共通教科「理数」）

科学技術への興味・関心や姿勢の向上

- ・科学技術に関する学習に対する意欲が増した 62%
- ・未知の事柄への興味が向上した 80%
- ・自分から取り組む姿勢が向上した 74%
- ・真実を探って明らかにしたい気持ちが向上した 72%（令和元年度スーパーサイエンスハイスクール意識調査）

科学技術コンテスト等における活躍

- ・国際科学オリンピック（国内大会）の年間のべ約20,000人の参加者のうち、約7,000人がSSH指定校生徒
- ・ISEF（課題研究型国際コンテスト）出場した日本代表生徒のうち、約5割がSSH指定校生徒
- ・国内外のコンテスト・学会で受賞 等
- ＜受賞例＞
- ・読売学生科学賞：過去5回中3回、SSH指定校生徒が内閣総理大臣賞を受賞。
- ・高校生科学技術チャレンジ（JSEC）：過去5回中3回、SSH指定校生徒が文部科学大臣賞を受賞。

進路選択に関する効果

- ・専攻分野の選択に影響を与えた 61%（令和元年度スーパーサイエンスハイスクール意識調査）

優れた科学技術人材の輩出

事業開始当初のSSH指定校の卒業生が、優れた科学技術人材として国内外で活躍

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援事業の今後の方向性等に関する有識者会議 第二次報告書（2021年7月5日）

Ⅲ. 今後の国による支援の在り方について

2. 認定枠（仮）の創設 （2）趣旨・目的、「事業枠（仮）」との関係

○「認定枠（仮）」：基礎枠としての予算支援を受けずに、SSH 指定校として、主としてこれまでの研究開発の成果を基に継続的な取組を行う枠組み。科学技術人材育成の全国的なモデルとして、これまで培ってきた特色や強み、SSH 指定校としての認知度・ブランドを生かしながら多様な取組を展開し、これまでの研究開発の成果を一般校も含めて普及する。教育課程の特例への申請も可能とする。科学技術人材育成システムの研究開発を実施・先導する「事業枠（仮）」と、これまでの研究開発により蓄積されたノウハウを基に取組を展開・普及する「認定枠（仮）」とが併存することで、管理機関・SSH 指定校における取組がより多様化するとともに、互いに SSH 指定校としての取組を支え、学び合う体制が構築されることにより、更なる科学技術人材の裾野の拡大や SSH 事業全体の活性化が期待できる。

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)平成28(2016)年12月21日中央教育審議会

＜抜粋＞

第2部 各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性

第2章 各教科・科目等の内容の見直し

5. 高等学校における数学・理科にわたる 探究的科目

p.151～154

(1) 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた
教科等目標の在り方

①新科目の設置の背景

○ 探究的な学習は、**学習に対する興味・関心・意欲の向上をはじめ、知識・技能の着実な習得や思考力・判断力・表現力等の育成に有効**であると考えられ、高等学校の数学及び理科の分野における探究的な学習を中核に据えた科目として、「数学活用」及び「理科課題研究」が設定されているが、大学入学者選抜における評価がほとんど行われないことや、指導のノウハウが教員間に共有されていないことなどもあって、高等学校における科目の開設率が極めて低くなっている。

○ 現在、我が国は様々な課題に直面しており、これらの解決手段としてイノベーションに大きな期待が寄せられているが、研究者には、深い知的好奇心や自発的な研究態度、自ら課題を発見したり未知のものに挑戦したりする態度が求められている。また、革新的な価値は、多様な学問分野の知の統合により生まれることが多く、従来の慣習や常識にとらわれない柔軟な思考と斬新な発想によってもたらされるものである。

②新科目の基本原理

○ このような方向性を踏まえつつ、アイディアの創発、挑戦性、総合性や融合性等の視点を重視しつつ新科目の基本原理については、以下のとおり整理することができる。

- ・ 様々な事象に対して知的好奇心を持つとともに、教科・科目の枠にとらわれない多角的、複合的な視点で事象を捉え、
- ・ 「数学的な見方・考え方」や「理科の見方・考え方」を豊かな発想で活用したり、組み合わせたりしながら、
- ・ 探究的な学習を行うことを通じて、
- ・ 新たな価値の創造に向けて粘り強く挑戦する力の基礎を培う。

(2)新科目の概要

①基本的な構成

○ SSHにおける実践の状況等も踏まえ、新科目においては、生徒が探究の過程全体を自ら遂行できるようになることを目指し、その基礎を学ぶ段階(「理数探究基礎」と、それを活用しつつ実際に探究を進める段階(「理数探究」)の2段階で構成することが適当である。

○「基礎を学ぶ段階」では、探究の過程全体を自ら遂行するための進め方等に関する基礎的な知識・技能、新たな価値の創造に向けて挑戦することについての意義の理解、主体的に探究に取り組む態度等を育成することが重要である。

○「探究を進める段階」においては、基礎で身に付けた資質・能力を活用して探究の過程全体を自ら遂行し、結果を取りまとめ、発表するものとする。その際、探究の成果としての新たな知見の有無や価値よりむしろ、探究の過程における生徒の思考や態度を重視し、主体的に探究の過程全体をやり遂げることに指導の重点を置くべきである。

②指導に当たって留意すべき点

○ 常に知的好奇心を持って様々な視点から自然事象や社会事象を観察し、その中で得た様々な気付きから疑問を形成させるようにすることが必要である。

○ 探究の課題の設定に当たっては、生徒の主体性を尊重しつつ、数学や理科における手法により探究が可能な課題となるよう適切な示唆を与えることが必要である。その際、生徒が既に身に付けている手法を前提に、これを適用できる課題を探すような順序とならないよう留意しつつ指導することが求められる。

③新科目の**評価**の在り方について

○「理数探究」の評価に当たっては、探究の成果における新たな知見の有無や価値よりも、**探究の過程**において**資質・能力をどの程度身に付けることができたかや、探究の過程全体を俯瞰的に捉え、自らがどの位置にいるか、どこで間違ったのかなどが説明できるようになっているかという点を重視すべきである。**

○ 探究の過程における観察・実験の内容やその中で生じた疑問、それに対する自らの思考の過程などを「探究ノート」等に記録させ、自己の成長の過程を認識できるようにするとともに、評価の場面でも用いることが重要である。

また、「探究ノート」等を通じて生徒の独創的な思考や探究の過程における態度を評価するほか、報告書や発表の内容、発表会における生徒による相互評価や自己評価を取り入れるなど、多様な評価方法を用いるとともに、複数の教員による複合的な視点で評価することが必要である。

④教育環境の充実等

(校内体制)

○ 数学及び理科の教員を中心に全校的な指導体制を整えることが必要。「理数探究」の指導に当たっては、**1クラスの生徒に対して複数の教員が指導。**

(教材の提供等)

○ 探究の進め方等に関する基礎的な知識・技能、新たな価値の創造に向けて挑戦することについての意義の理解、研究倫理に関する基本的な理解など、「理数探究基礎」における学習内容を適切に指導。

(教員の養成・採用) (施設・設備等の充実)

(大学、研究機関、企業等との連携)

3 京都市立堀川高等学校の「探究」

アクティブラーナーを育てる

主体的な学習者／自律的な学習者

自立した学習者

自立的な学習者……たとえば

事物に対して興味関心を持ち、さまざまな角度から考え、疑問を抱き、問いを立て、その解決のために段取りを組み、多様な情報や材料を集め、結び付けたり選び分けたりして、試行錯誤を重ね、自分で判断してまとめ上げる。

その過程で、人の意見に耳を傾け、誠実に対話し、助け合い、学び合い、自分の考え方・やり方を丁寧かつ謙虚に振り返り、失敗についても過不足なく受けとめて、粘り強く取り組み、工夫や改善を加える。

まとめあげたものについて、根拠に基づいて説明し、自他の評価によってさらに考え、調整してよりよいものにし、次につなげていく。

このような取り組みを、個人でも集団の中でもしようとする、自在にできるようになる。

人は学ぶ意欲を持って生まれてきたはずだ

○生徒が考えることをしなくなってきたら、それは「与えられる教育」を受ける中で、考える必要がなくなってきたからではないか。

○ならば、基礎だけをしっかりと身につけさせて、それ以上はあえて与えず、あとは自分で考えさせる。それが生徒の成長を真に支援する教育のあり方ではないか。

○さりながら知識は重要。そして、知識を活用する経験もまた極めて重要。

○詰め込みの知識習得型か、ゆとりの課題探究型か。探究ではそれらが互いに補完し合い、相乗効果を生む。よって、どちらか一方ではなく、“二兎を追う”。

○探究を軸にして、教師が「単に教える」から、生徒が「深く学ぶ」へ転換することが必要。

「教師が教え育てる」から「生徒が教わり育つ」へ。
教師たちの中で“主語と動詞”が転換したとき、改革は加速し、「探究科」と呼ばれるまったく新しい学科が生まれた。
「すべては君の『知りたい』からはじまる」—生徒へ向け強いメッセージを発するその学科は、「詰め込みVS. ゆとり」の既存の構図も無意味な対立へと変えた。

野中郁次郎一橋大学名誉教授

2009年 リクルートWorks VOL.42

<https://www.works-i.com/works/item/w92-seikou.pdf>

学習意欲を引き出すカリキュラム・マネジメント

目標－現状＝課題

まず、「現状」……生徒、教職員

（自己肯定感・進路・役割の認識……）

そのうえで、「目標」……遠近いずれも

（「何のために？」・キャリア形成……）

そこから導き出される「課題」

……主体的・対話的で深い学び

（答えでなく学び方・教育課程……）

- あせらず学ぶ／あなどらずあきらめずに学ぶ
- 合計点でも平均点でもない価値がある
- 「学び方を学ぶ」を主眼に
- 生徒の力を見くびらない／敬意をもって接する
- 学ぶ機会の公平
- 偏差値では見えない力あることを信じられるか
- 外部人材／特別免許状／研修
- 学び合う場としての学校に
- 評価は対話から＝やりとりがだいじ
どれだけの時間・機会が？ ……条件整備

世有伯樂然後有千里馬
里馬常有而伯樂不常有
千
（韓愈『雜說』）

世有伯樂然後有千里馬
里馬常有而伯樂不常有
千
（韓愈『雜說』）

千里馬・・・生徒のよさや可能性
伯樂・・・生徒のよさや可能性を
見出して、個々にふさわしい
養い方をする指導者

世有伯樂然後有千里馬
里馬常有而伯樂不常有
千
（韓愈『雜說』）

生徒のよさや可能性を見いだし、
本人に気づかせる「伯樂」。

……「目利き」

「伯樂」に出会う経験を通して、
生徒自らが、自分のよさや可能性に
気づくことができるように
なっていくのではないか。



「自立する18歳」に向けた First Stage ～11期生の1年間を設計する～

2009. 3. 18
京都市立堀川高等学校



目標到達への行緯設計 学習計画の作成 学習到達度の確認		1 年 生														2 年生
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
				前期中 (9)土曜アカ①	(9～12) 前期中間考査 (27)土曜アカ②	前期中 (11)土曜アカ③		(12)土曜アカ④	(1・2・5～7) 前期末考査 (24)土曜アカ⑤	後期中 (21)土曜アカ⑥	(8～11) 後期中間考査 (16)土曜アカ⑦	後期中 (25・2・3・4) 学年末考査				
主な学校行事		合解発表 合格者発表	(14・15)花背山の家 宿泊4日間研修	(1)遠足	(17)球技大会	(3)SSH発表会 (7)入塾学習 (下旬)全員学習	(下旬)全員学習 (29)探究科説明会	(5・6)文化祭 (19)探究基礎Ⅱ発表会 (19)普通科説明会 (25)体育祭	(20)創立記念日	(中旬)入塾学習 (7)探究科説明会 (14)京都賞状授受式	(下旬)全員学習	(下旬)全員学習	(下旬)遠足マフジン			
学習内容の 定数確認と 応用力判定	I 類		スタディサポート	(23)全統①		(4)進研①	(26)全統②		(4)進研② (31)進研③		(7)進研③ (20)学研ハレベ	(20)スタディサポート				
	Ⅱ 類		スタディサポート	(23)駿台全国①		(4)進研①	(26)全統②		(8)駿台全国② (31)進研③		(7)進研③ (30)学研ハレベ	(20)スタディサポート				
	探究科		スタディサポート	(23)駿台全国①		(4)進研①	(26)全統②		(8)駿台全国② (31)進研③		(7)進研③ (30)学研ハレベ	(20)スタディサポート				
進路選択に 向けて	「近い未来」設計 「遠い未来」設計		個人面	(22) 進路ガイダンス 「文理選択に向けて」	(19) 前期進路調査	(17) 進路ガイダンス 「夏の学習計画」 (中旬)文理調査		(11・18) 進路ガイダンス 「科目登録に向けて」 (下旬)文理仮算	個人面	(6) 後期進路調査 (下旬)文理本算	中学校担当者	1年間の振り返り 2年生への準備	(下旬) 進路ガイダンス 「先輩に学ぶ」			
					「気になる仕事」から考える 「学びたい学問」から考える 「なりたい自分」から考える		「情報収集」 オープンキャンパス 参加	個人面	「学科/学部」をわ 「大学」をわ 「将来」をわ 「進路目標」の設定							
	保護者との情報 共有の機会 (別途ご案内します)			(23)		(13～16)		(12)	(27～30)		(12)					
学びの作法 習得	総合探究Ⅰ (普通科)	[A stage] → [B stage] → まとめの会														
	探究基礎Ⅰ (探究科)	[HOP] → ゼミ活動 → 探究活動														
		問うことの意義 → ネットワークとモデル → 情報の検索 → 論理的な表現 → 議論・対話 → 論理的な表現 → 新たな発見を見つけ出す・作り出す → 普通科海外研修旅行 → 探究科海外研修旅行														
主体的取り組みの機会		花背山の家 スタッフ活動	遠足運営	球技大会運営		説明会スタッフ活動	文化祭・体育祭の取組 説明会スタッフ活動	文化祭・体育祭の取組 説明会スタッフ活動	文化祭・体育祭の取組 説明会スタッフ活動	説明会スタッフ活動 京都賞状授受式			進路ガイダンス運営			
		総合探究委員会 探究基礎委員会														
		普通科研究旅行委員会 探究科研究旅行委員会														

※ 上記の()内の数字は実施予定日を表します。変更の場合がありますのでご承知おください。

「自立する18歳」に向けた Second Stage ～11期生の1年間を設計する～

主体的な学習スタイルの構築

「遠い未来」確認から「近い未来」実現へ

1年後の自分を想定して

「2月から3年生」

		3年生													
目標到達への行緯設計 学習計画の作成 学習到達の確認		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
		前期中間	(8～11) 前期中間考査	前期中間				(1・4～7) 前期末考査	後期中間	(7～10) 後期中間考査	後期中間		(7～11) 学年末考査		
主な学校行事		(36)遠足		(中旬)演技大会	(11)人権学習 (下旬)全員学習	(下旬)全員学習 (28)探究科発表会	(4・5)文化祭 (18)普通科発表会 (18)探究基礎Ⅱ発表会 (22)体育祭	(7)前期終業式 (20)創立記念日 (13)後期始業式	(6)探究科発表会 (12)教育研究大会 (12)京都賞特別授賞	(下旬)全員学習	(上旬)全員学習	(上旬)遠足マラソン			
学習内容の 定数量確認と 応用力判定	I 類 (Ⅱ) Ⅲは希望者対象	(授業内) 英語コミュニケーション 能力テスト	(22)全統①		(3)進研①	(26) 英語能力テスト		(18)全統② (30)進研②			(7)進研② (16)センター模試 (22)学習マート	(5)進研「ロード」	(12)「9」ディ「ゲ」	(学研総合)	
	Ⅱ類・探究科 (Ⅱ) Ⅲは希望者対象	(授業内) 英語コミュニケーション 能力テスト	(22)全統①		(3)進研①	(26) 英語能力テスト	最初の 5教科7科目模試	(8)全統② (30)進研②	センター試験型模試		(7)進研② (16)センター模試 (22)学習マート (28)全統②(東大レベル)	(5)進研「ロード」	(12)「9」ディ「ゲ」	(学研総合)	
	土曜テスト (ⅡⅢ類・探究科のみ)		(8)第1回 (29)第2回	(26)第3回	(10)第4回		(11)第5回	(23)第6回	(20)第7回			国公立2次型模試			
進路選択に 向けて	「近い未来」設計 「遠い未来」設計	(12) 進路ガイダンス (2年生のスタート)	(7) 進路ガイダンス (2年生学習チェック)	(中旬) 前期進路調査	(18) 進路ガイダンス (夏休み前)		(10) 進路ガイダンス (科目登録に向けて)		(上旬) 後期進路調査	(中旬) 進路ガイダンス (進路調査会)	(下旬) 進路ガイダンス (センター試験を知る ～10期生の経験から～)	(下旬) 東/京阪神大学 アセスメントガイダンス	(中旬) 進路ガイダンス (卒業生に学ぶ)		
		個人面談			オープンキャンパス 進路情報の収集		個人面談		個人面談				個人面談		
		◆ 社会との関わりを考える どんな仕事があるか？その目的と価値は？ やりがい？責任は？ 自分の夢は？適性は？ 自分はどう貢献できる？必要とされる能力													
		◆ 情報を活用して判断する 夢の実現のための行緯は？ 教養を高め、専門性を追求できる学部・学科は？ 大学での学習内容や環境、特色は？ 入試に必要な科目は？													
		◆ 夢の実現に向けた強い意志を持つ 情報を整理して決断できたか？ 自分は今どの位置にいるのか？ 課題解決への計画立案・実行・振り返りまでできているか？ 受験生としての責任と決断ができたか？													
		◆ 1年後の自己像と3年生の設計 1年後の自分のイメージは？ 傾向と具体的な対策は？自分の課題は？ 目標と現実との差を埋めるには？ 高みをめざす自立学習習慣は形成しているか？													
保護者との情報 共有の機会 (別途ご案内します)			(8) 保護者全体会		(13～16) 保護者懇談会			(28～2) 保護者懇談会					(上旬) 保護者全体会		
学習の作法 習得	総合探究Ⅱ (普通科)	【B stage】	発表会	情報	【C stage】	8つのゼミに分かれての 活動スタート									発表会
	探究基礎Ⅱ (探究科)	探究活動 【JUMP】	中間発表会	各ゼミ活動の 仕上がりに向けて			ポスター発表								論文完成
主体的取り組みの機会		遠足企画運営	演技大会運営 人権学習活動	文化祭企画	文化祭企画 説明会スタッフ活動	文化祭・体育祭の取組 説明会スタッフ活動	文化祭講演会運営	説明会スタッフ活動 京都賞特別授賞運営							進路ガイダンス運営
		総合探究委員会 探究基礎委員会													
		普通科研究実行委員会 探究科研究実行委員会													

※ 上記の()内の数字は実施予定日を表します。変更場合があります。



「自立する18歳」に向けた Final Stage ～11期生の1年間を設計する～

2011. 6. 3
京都市立堀川高等学校



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標到達への行機設計 学習計画の作成 学習到達度の確認				(6～10) 前期中間考査	(21～30) 夏期講習Ⅰ・Ⅱ	(22～26) 夏期講習Ⅲ		(3～7) 前期末考査	(24～30) Ⅰ 後期中間考査 (24～30) Ⅱ 期 卒業考査	(21～26) 冬期講習	(26～31) Ⅰ 卒業考査	特別時間割	
主な学校行事			(13)遠足	(16)球技大会 (24)人権学習	(5)団体運動 (20)運動会	(27)探究科説明会	(3・4)文化祭 (17)普通科説明会 (22)体育祭	(7)前期新卒式 (13)卒業式 (20)創立記念日	(12)学校説明会 (18)教育研究大会		(7)運動マラソン	(1)卒業式	
学習内容の 定着度確認 と 応用力判定	I 期 Ⅰ 総合学習	(23)共通プレゼン	(29)総合①	(11)進研マール	(25)進研①/小論文 (31)代々木センター	(14)全統マール	(10)共通マール/ 小論文	(9)総合② (13・15)共通配速 (22)全統マール (30)全統配速	(4)総合センター① (18)総合センター②	(1)総合マール	(26)総合マール		
	Ⅱ 期・探究科 Ⅱ 総合学習	(20)共通プレゼン	(29)総合①	(11)進研マール	(25)進研① (31)代々木センター模試	(14)全統マール	(10)共通マール	(9)総合② (13・15)共通配速 (22)全統マール (30)全統配速	(4)総合センター① (18)総合センター②	(1)総合マール	(26)総合マール		
		定着度・到達度の確認と課題発見				夏の学習成果を試す		個別試験に向けた最終トライ		センター試験本番を想定した練習			
「近い未来」設計		(22)進路ガイダンス 「3年生のスタート」	(27)前期進路調査		(1)進路ガイダンス 「夏を自己設計する」		(9)進路ガイダンス 「センター試験出題」		(4)前期進路調査 (11)進路ガイダンス 「冬を自己設計する」		(13)センター試験模範 (16)自己採点会 (20)進路ガイダンス 「センター試験模範と個別 試験に向けて」		
	個人面談の実施												
進路実現に 向けて		「1年間の展望/春休みの振り返り」「部活動からの切り替え」「志望校確認と夏に向けて」「夏の振り返りと秋以降の学習」「受験校確認と対策」「冬の学習模範」「センター試験後の出題と最後の学習」											
		◆ 学習スタイルを再考する・実行する 目標達成のための行程は見えているか？ 進路実現に向けた学習時間は確保できているか？ 部活動引退後の切り替えはできているか？ ◆ じっくりと学習に向き合う 自分の学力を客観的に把握できているか？ 学習内容と時間に過不足はないか？ 苦手科目に取り組み姿勢は保っているか？ ◆ 強い意志を持って最終段階に挑む これまでにやり切れていない学習は何か？/ラシスとは何か？ 本書を想定したシミュレーションができていないか？ 最後まであきらめずに、覚悟を持って学習ができていないか？ ◆ これまでの自分を信じて挑戦する 本書への心の準備はできているか？ 生活のリズム、体調管理は万全か？ 自分に自信を持つ！最後まであきらめずにやり切る！											
スケジュール 【予定】 (詳細は各大学によつて異なります)		立命館 高大連携プログラム (法学部)・(文学部) 「選抜要項」 (選抜方法・入試科目) 取り寄せ 推薦校推薦・ 高大連携 推薦入試公示 センター 試験 受験案内 配布 センター 試験 出願 国公立・私立 公募制推薦入試 「募集要項」(願書) 取り寄せ センター 試験 受験案内 配布 (14・15) センター 試験 個別試験 出願 私立大学 一般入試 国公立 個別試験 (2/25～) 前期 (3/8～) 中期 (3/12～) 後期											
保護者との情報 共有の機会 (別途ご案内します)			(4) 保護者全体会	(13～18) 保護者懇談会				(31～1) 保護者懇談会		(21～22) 保護者懇談会			
主体的取り組みの機会			進路企画運営	球技大会運営 人権学習活動	人権学習活動 文化祭企画	文化祭企画	文化祭の助成 体育祭の助成				卒業に向けて	卒業に向けて	

30

ありがとうございました

